

平成29年度 第3回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成30年2月14日(水)午後2時00分～午後4時00分

◇ 会 場 県立久喜図書館 研修室(2階)

◇ 出席者 (1) 出席委員
市川栄子 委員 笛木智恵美 委員 深堀敬治 委員
江田明子 委員 小柳直昭 委員 酒井由紀子 委員
杉山きく子 委員 荷田幸雄 委員 早川恭子 委員
日向美津江 委員

(2) 図書館職員

【県立熊谷図書館】

代島 館長 大嶋 副館長 荻原 副館長 村中 司書主幹
峰岸 司書主幹

【県立久喜図書館】

及川 館長 長谷川 副館長 銭場 教育主幹
神原 主任司書 番匠 担当課長 奥永 主任

(3) 教育局職員

【市町村支援部】

塩崎 副参事

◇ 会議次第

1 開 会 [久喜図書館 銭場 教育主幹]

2 あいさつ 県立久喜図書館 及川 館長

3 平成29年度第2回会議録の報告

4 会議録署名委員の指名

会長が、笛木委員と杉山委員を指名し、了承された。

5 会議を公開することについて議決

傍聴希望者はいない旨の報告あり。

6 議 事

(1) 埼玉県立図書館協議会サービス評価小委員会委員の指名について

[熊谷図書館 大嶋 副館長]

資料1「埼玉県立図書館協議会サービス評価小委員会委員の指名について」に基づき説明。

【質疑】特になし。

承認

(2) 平成30年度当初予算案について

〔熊谷図書館 大嶋 副館長〕

資料2「平成30年度当初予算(案)の概要」に基づき説明。

【質疑】

委員／第1回協議会で、今年の「県立図書館活性化推進事業」76万円に先進図書館の視察旅費が含まれているとの説明があり、今回の「県立図書館機能に関する調査研究」の中にも先進施設の視察が含まれているとのことだが、29年度はどういった所へ行き、どういうところが参考になったのか。来年度はどういった施設に視察へ行くのか。

教育局／今年度は、関西方面の奈良県立図書情報館、京都府立図書館、国立国会図書館関西館へ行った。都道府県立図書館は、目立った活動をしている所、国会はデジタル化を進めている関係で視察をした。

図書館と教育局の職員を中心としたメンバーで、その視察の成果を踏まえて、将来の図書館の機能について取りまとめをしている。なかなか成果を出すには難しい面もあり、来年度も引き続き研究を行う。

来年度も先進施設の視察があるが、都道府県立図書館に限らず、幅を広げ、埼玉県らしい図書館の機能を研究して行きたいと考えている。

委員／資料費について、3館から2館になっているので比較は難しいと思うが、資料費のピークが2000年度(平成12年度)あたりかと思うが、そのピーク時はいくらくらいだったか、県民一人あたりの資料費がピーク時に比べてどのように推移しているかを教えていただきたい。後でよいが。

事務局／ピークについては、資料を見つけて後程答えるが、昨年2017年度(平成29年度)の一人あたりの資料費は、埼玉県は7.92円である。2016年1月の人口で割った数字である。

委員／2000年度からみると変わっているのか、維持しているのか。後で分かったら教えて欲しい。

委員／デジタル化という話があったが、プロジェクションマッピングをしたいと思うが、図書館とは全く違う分野なのか。機能に関する調査研究というところで、そういったものも考えて行ったらどうか。

教育局／現在行っている研究の期待値として、デジタル化された資料を使ってそれを公開してどのように県民に使ってもらうのか、ということあり、今年度の研究の中でのひとつのトピックになっている。ただ図書館であまり行われていないため、どう進めて行くか模索している状況である。

来年度も研究して行くなかで検討していきたい。

委員／映写する機械はそう高くないが、映し出す絵を作るところで、図書館の研究に入るかどうか検討があってもよいかと思った。

委員／県立図書館情報化推進事業のコンピューターシステムの更新について、プロポーザルなどいろいろな方法があるが、どのような方法で選定するのか。

事務局／図書館システムは、ある程度一般化したパッケージのシステムになっており、一般競争入札を考えている。

委員／入札の結果、図書館のシステムとホームページが違う開発者となって、使い勝手が悪くなるとかはないのか。見た目はあまり変わらないのか。

事務局／ある程度の継続性を担保されるような仕様で一般競争入札でと考えている。

副会長／コンピューターシステム更新とのことで、プラスの額がかなり大きい。この中の割合として、リプレイスするコンピューターシステムにどれくらいを見込んでいるのか。ハードの部分までお金を掛けようとしているのか聞きたい。

事務局／今回の大きな問題として、図書館だけではなく県のシステムも置かれているクラウド自体が、新しいところへ移行するということがある。

また、システム自体は県立図書館の貸出業務等に耐えうるシステムということで、ある程度のパッケージが決まっている部分もあるが、今現在使用しているシステムは、何回か更新を重ね、その都度ある程度手直しを行ってきた。今回それも併せて、まっさらな状態でリプレイスをかけようということになっている。

予算的な面で言うと県立図書館クラスのソフトとなると数千万円規模というところが標準的なところ。それにハードが加わることになる。そこでこの予算案を組んだ。

さきほど質問のあった入札の方法は一般競争入札ということになるが、その際に評価を頂くような手続きも取ることになっている。

会長／感想として、「県立図書館再編整備事業」予算が0円ということで、来年以降は無くなる。「県立図書館機能に関する調査研究」というのは引き続き残るが、県立図書館が将来的には1館を目指す話もあるので、県立図書館の再編はどうなっているのか。何かの報告で調査研究した結果が県民にも周知ができるようなことがあるとよいと思う。

(3) 「図書館と県民のつどい埼玉2017」の結果について

〔熊谷図書館 峰岸 司書主幹〕

資料3『「図書館と県民のつどい埼玉2017」実施報告』に基づき説明。

【質疑】

委員／3ページのA-3「あなたは学生ですか？社会人ですか？」の問いに関して、社会人に208人回答があったということだが、この内図書館関係者が何人位だったか。

事務局／内訳は取っていなかったが、見掛けたところでは図書館関係者もある一定数は来ていたようだ。

委員／A-5「ポスター・チラシはどこで御覧になりましたか？」について、「書店」という項目があり0という結果だが、書店にも配布したのか。それと、ポスターを図書館にはどれくらい貼って、図書館以外にはどれくらい貼ったのか。

事務局／今年度は書店に配っていない。申し訳なかった。県内の市町村立図書館には配布しているが、そこで掲示していただいているかどうかは把握できない。どこに何部配布したかは記録に残っているので何らかの形で回答したい。

委員／この講演者の著作のファンの方が会場に結構来ていたようなので、書店に貼ればもっと参加者がいたかと思った。

委員／ビブリオバトルの写真があるが、呼びかけは県内の全高校に行ったのか。

事務局／高校生については、高校教育指導課で行っている彩の国高校生ビブリオバトルの上位入賞者3名推薦していただいた。

委員／たまたま全員女子になったのか。

事務局／彩の国高校生ビブリオバトルの最優秀者は男子で、その生徒は全国大会に行っており、その2位から4位の生徒がたまたま女子だった。また、3名が高校生で3名が中学生だが、中学生に関しては県立図書館で予選を行った。それは県内の全中学校に呼びかけ、学校で推薦した生徒で予選を行い、これも女子ばかりになった。あえて男子を避けたということはない。アンケートの回答にも「男子もいるとよかった」などという声もあったが、予選を行った結果で女子ばかりになった。

委員／本が好きという方は男性女性同率でいるが、こういったところに出てくる方、関わる方は女性が圧倒的に多く、どうやったらもう少し男性を取り込めるかということが、県立の「つどい」でも課題だと思った。

(4) 平成29年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修会の開催結果について

〔熊谷図書館 峰岸 司書主幹〕

資料4「平成29年度関東・甲信越静地区図書館地区別研修 開催結果」に基づき説明。

【質疑】

委員／研修の中身についてというよりも、12月1日に行われた障害者サービスについての講義の関連で質問する。図書館は、健常者だけでなく、どなたでも利用できる施設だと認識しているが、この協議会委員に特別支援学校の方がメンバーに入っていないのはなぜか。

現在定数よりも委員数が少ない数になっているので、余裕があるならば、特別支援学校の先生をメンバーに追加するような形で入っていただいた方がいいのではないか。

事務局／御意見ということで伺った。教育関係で2人の方に委員になっていたが、県立学校の方は「埼玉県高等学校図書館研究会」という団体に推薦を依頼している。ここには特別支援学校も含まれている。

委員／今の御意見を伺ってだが、特別支援学校も県立だが、高図研のような組織だと、その中で代表を出してくれと言われた時には、どうしても選ばれにくい。障害者という視点を考える時に、今の御意見は大変ありがたいと思うので、是非検討していただきたい。

別の話したが、研修会の場所が近代美術館ということで、何か連携していくためのということなのかどうか。美術館にも博物館にも必ず図書室があり、博物館で持っている資料と図書館で持っている資料がかぶっていたりする。美術館、博物館で持つような資料は大変高価なので、資料代が有効に活用できないのではないかと思った。会場の近代美術館というのを拝見して、そういうところとのネットワークもあるのか。

事務局／この研修自体が多様な利用者に向けて、図書館がどういったサービスができるかというのが主題であった。いろいろな社会教育施設と図書館が連携して、今後やっていかななくてはいけないという要素があったので、今回は、施設見学の場所として、近代美術館を使わせていただいた。

もうひとつ、資料の関係だが、現在、図書館と博物館関係施設とは連携組織がない。その辺は先ほどの将来の県立図書館の機能研究の中でも指摘があり研究している。

会長／今、貴重な意見が出たので、今後の図書館機能を考える上でも、是非検討していただきたい。

参加者数の詳細のところ、埼玉県は47名となっているが、市町村別には何か所くらいなのか。

事務局／下の「参加者内訳」に「区市町村立」の「県内」が31名とあり、何か所か複数出席していて、17の市町村から出席があった。

(5) 県立久喜図書館の健康・医療情報サービスについて

〔久喜図書館 神原 主任司書〕

資料5「埼玉県立久喜図書館の健康・医療情報サービス」に基づき説明。

【質疑】

副会長／前回熊谷図書館で図書を選書を行っていると同ったが、健康・医療情報サービスの枠組みの資料の選書はどこでどのように行っているのか。

事務局／基本的には熊谷の収集・整理担当で選書をしている。ただし今年度は、先ほど予算のところにあったサービス充実費の中に健康・医療情報の枠を取っているので、久喜の自然科学資料担当の方である程度リストをまとめて、収集担当へ提供をし、その中から選ぶことも行っている。

副会長／専門分野のことで、公共図書館の職員はこの分野だけ対象としている訳ではないので、是非専門分野を究めた方々に携わっていただけたらよいと思っていた。

委員／市町村図書館では医療の情報は割と需要が多く、どちらかと言うと、テレビやマスメディアで流される情報を元に資料を求められる方が多いが、その中でも専門的な情報を求める方も少し出て来ている。体だけでなく心の問題など専門的なことを含めて調べて欲しいという要望もあるので、県立図書館で信頼のおける情報の資料をそろえていただけると、市町村図書館としては大変助かる。今後も協力や相談、研修などを行っていただきたい。

委員／質問というよりは、素晴らしい取り組みをこれからも広げてもらいたい。先ほど特別支援学校の話があったが、先生方もどうやって情報を求めていか悩んでいることもあると思うので、こういったところで資料が得られるということ、各学校に知らせるようなことがあるといいと思う。

委員／もともと医療の専門ではない職員がやっており、やはり専門機関と連携をして、研修など行って頂きたい。

何故図書館で健康・医療情報なのだろうと思っていたが、「調べるを応援します」ということで、図書館の職員は調べることのエキスパートで、どんな分野に対しても道筋を作ってくれる。

個人的に図書館について思うことだが、頭で情報を得ても、人により受け取り方が違う。直接ではないが文学の小説を読むとか芸術的なものに触れるとかして想像力が豊かになり、人の思いを感じ取れたり、考えを受け取れるようになることがすごく重要で、そこに会社組織などの利益を求めるところではなく、公的な図書館が存在している意義があると思う。

新しい現代のニーズに合った情報を提供しようというのは企画としては良いが、元々持っている文学や芸術の分野も是非誇りを持って沢山取り組んで行って欲しい。

(6) その他

委員／資料2の予算に興味を持って見た。情報化推進事業として約1億円がシステム更新に使われるということで、かなり大きな事業だと思うので、是非、リーズナブルに乗り切っていただきたい。

事務局／先ほどの資料費の過去からの推移は改めて資料を提供する。

【要望・意見】

委員／最近の新聞情報であるが、公立図書館が指定管理者制度をどんどん取り入れている。県立図書館から見て市町村立図書館が指定管理者制度になった場合のメリット・デメリットというのがあれば教えていただきたい。

事務局／県立図書館の機能のひとつに市町村立図書館の支援がある。日本図書館協会の調査では、28年度までに県内でも18市町の分館を含む39館が指定管理に移っているが、県立図書館は直営でも指定管理でも分け隔てなく支援している。

従って、指定管理制度のメリット・デメリットについて、県立図書館が協議会の場で申し上げることは、公平な支援業務への疑念を生じさせたり、指定管理者の決定やその更新に関わる評価に影響を与えかねないので、それは設置者や研究者にお任せして、県立図書館としては差し控えさせていただきたい。

委員／感想だが、子ども読書推進に力を入れていただいて大変ありがたい。

それと、本日のプレゼンにもあったが、がん教育にこれから取り組まなくてはならないし、それに限らず、なにかと学校への期待が大きい。その中で図書館の側から信頼できる情報が提供され、手に入るのだと今日改めて感じる事ができた。

課題としては、すでに提示されている色々な取り組みに対する認知度を高めるということで、現場や社会のなかで知りたいという思いが広がるように、手に入るような情報を是非身近なところでいろいろ知らせていただければと思う。

会長／知ってもらおうというのはとても大事なことで、市民、県民が分からないまま諦めないようにしていくのが図書館のひとつの使命かと思う。病院や公共図書館の掲示物などで、県立図書館の行っているサポートがどんなものか、市民にも職員にも伝わるといいと思う。

先日県内でビジネスライブラリアン講習会が開かれたと聞いたが、県立図書館で参加者数など、把握していることを知りたい。

事務局／埼玉開催では参加者が22名で、うち県立図書館が15名、さいたま市立から5名、川口、飯能から各1名であった。

会長／もう少し多くてもよかったが。

事務局／県内全体に広報はしたが、なかなか参加がなく、個別に声も掛けたが市町村からあまり参加がなかったのは残念であった。

会長／県立から15名参加しているので、これからの県立のビジネス支援ということで、機会があったら県内の職員向けにも伝達していただけたらと思う。

副会長／県立図書館を再編するにあたり、久喜市から県立図書館を残して欲しいと要望があったと何かで読んだが、市立図書館とのサービスの住み分けなどの観点から、今の状況と今後の気になっている。県立図書館が熊谷と二つに分かれているというところで、良いところもあり、不便なところもあるのでは。

教育局／まず、再編整備の関係で、確かに久喜市から県に対して県立久喜を残すようにという要望が数年前にあった。県としては、県域全体を見渡して、県立図書館はどうあるべきか判断するというのが基本的なスタンス。将来的には1館にしたいというのが今の立場で、そのために色々な研究をしている。市立図書館と県立図書館の住み分けは、県立らしい図書館というものを将来的には作って行きたいと思っている。

事務局／補足になるが、久喜市立図書館との住み分けということでは、県立図書館では専門書を中心に収集しており、一般の方が買うような小説などは久喜市立図書館に限らず、市町村図書館に任せている。これは県立久喜と久喜市立の住み分けとしても変わらない点である。

委員／熊谷と久喜と当時あった浦和が一緒になって熊谷に来るという話があった。最初に委員になった時に予算化について質問したが、その時はついていないとの答えだったが、今の話だとまだ希望があるということか。

教育局／知事は将来的に1館ということを言っており、それはそのままだが、1館にするための勢いが必要だと7月にお答えした。あるべき県立図書館というものを色々と研究して行くということは引き続き来年度もやらせていただく。

2館になっていることで、利用しづらいというのは事実で、そういった意味では1つの図書館でどういうサービスをやっていけば県民の方に支持されるのかを今後とも考えて行きたいと思っている。

以上で、議事終了

7 閉会

[久喜図書館 銭場教育主幹]

会議録署名

会 長 _____ 印

委 員 _____ 印

委 員 _____ 印